



←矢切畑が開発される。土壌調査が始まった。なんでも川の駅や公園がつくられるらしい。こうして畑がだんだん消えてゆくのだ。

→河畔の木々が大きくなり矢切の渡しがすっかり見えなくなっている。

ようやく梅雨らしい天気になった。日曜日の今朝は雨で明けた。もちろん、矢切の渡しの舟頭さんにとっては雨は喜ばしくはない。お客さんが来ない。したがって渡し舟は休みにすることになる。

昨日の土曜日はよく晴れた。対岸の葛飾・柴又ではソフトボール大会が開かれていて、にぎわっていった。

それを見ながら舟頭さんが、「あそこに政治家が顔をだしたらどうだろうね。ひんしゆくをかうかなあ」そういって、さらに続けた。

「ああ、そういえばもう東京都議選が始まってるんだ」

わずか一五〇メートルほど離れているだけで都議選の雰囲気は千葉県側には伝わってこない。

それとも都議選そのものが東京都民を、それほど燃えさせていないのだろうか？

たしかに争点が豊洲移転問題で葛飾区の住民からすれば、よそのことのように思っているのではないだろうか。だから、シラケているのかもしれない。



今週のクマ

→モグラの匂いを追いかけて草むらを掘始めたクマ。



→6月20日、用水路の水が止められた。いわゆる土用干しと呼ばれるものだ。少し早すぎないか？下の写真は死に行く小魚やザリガニたち。



小池百合子東京都知事は、なりふりかまわず自分の息のかかった人間で都議会を思い通りにしようとしている。

都議会を自分の意のままにしようということは、せつかくの二元代表制の意義も失われてしまうのではないだろうか？知事が提案をし、議会が審議をして話し合い物事を決めるのが二元代表制のいいところだが、自分の息のかかった都議会議員で議会を運営すれば思い通りに都政を進めていける。

小池知事がそれをねらっているのは、都民ならずとも見えみえだ。つまり独裁政治を目指しているよに思える。

もちろん、絶対的に自分の考えが正しいのであればそれもいだろう。もしそうであれば、自分の息のかかった議員がいなくても自分の政策を都議たちが支持してくれるはずだ。

それとも政治の世界というものは、どんなにいい施策であつても党が違えば認めてくれないものなのだろうか？

小池知事のおがままに都民たちは、シラケているのではないだろうか。いまひとつ川向こうの東京側から熱気が伝わってこないのは、そのせいかも知れない。